

# 静岡松涛タイムス 第52号

発行元：静岡県本部広報部 責任者：滝田宏平

連絡先：0547-36-1238(TEL) 0547-36-1293(FAX)

E-mail：kouheichan@tiara.ocn.ne.jp

URL <http://www.shizuoka-karate.com/> (公式 HP)

<http://www4.tokai.or.jp/sougou/> (広報部)

## 県本部主催強化練習



全国大会を2週間後に控えた7月24日(日)に、静岡市北部体育館にて県本部主催の強化練習が開かれました。対象は全国大会出場選手のみと言うことで、参加した選手の顔には「ビシッ」とした、程よい緊張感が漂っておりました。当日は、朝から気温・湿度とも高く、時間の経過と共にどの選手からも汗がふきだし、会場は

選手の熱気に包まれましたが、誰一人緊張感を損なうことなく、練習に励んでおりました。後半は、実戦形式の練習試合が組まれ、日頃の稽古や指導陣のアドバイスを試すかのように、選手は技を繰り出していました。出場選手の皆さんには全国の大舞台に静岡県代表として、本日の強化練習や普段の稽古を活かしぜひ本番でも実力を存分に発揮していただきたいと願っております。(レポート：広報部 秋山 高士)

## 第38回全国高等学校空手道選手権大会

本年3月、東北地方を中心に、広範囲に渡り未曾有の被害をもたらした東日本大震災から約5ヶ月、復興



の兆しも少しずつですが見え始めてまいりました。「ガンバロウ東北！東北に元気を」を掲げ、にわかに人々の活気を取り戻しつつある東北地方の青森県十和田市にて7月30日～8月2日にかけて第38回全国高等学校空手道選手権大会が開催されました。インターハイの名称で知られる本大会は国内48都道府県の、個人戦形・組手共に男女各2名と団体戦組手は男女各1チームという狭き門を見事勝ち抜いてきた選手による、文字通り高校空手部の桜舞台であります。静岡県空手道選手団は総勢20名で大会に臨みました。地元青森北高校プラスバンド部の演奏に合わせた入場行進でも、堂々としたその勇姿に、空手王国静岡を感じる事ができました。静岡県選手団の中には松涛連盟出身選手の顔もあり、試合前ではありますが早くも期待が高まります。選手団は県内複数の学校で編成されているのですが、参加選手の凄まじいスピードや高等技術以上に印象に残ったのが、他校の応援団が同じ静岡県の選手を力強く応援していた事です。応援は拍手のみという制約があったのですが、この会場内に響き続ける力強い拍手が、選手団を大きく勇気づけたのではないのでしょうか。全国のトップ選手を相手に、惜しくも試合に敗れたとしても、選手の顔や態度には、入場行進の時と同じく堂々とした貫禄を見ることができました。来年への挑戦はすでに始まっております。本大会は次へと繋がる素晴らしい大会となりました。空手王国静岡日本一！主な結果：男子団体組手 御殿場西高校 第3位入賞 女子団体組手 常葉菊川高校 第5位入賞(レポート：広報部 秋山 高士)

## 第12回全国空手道選手権大会

連日続く厳しい猛暑の中、平成23年8月6日(土)～7日(日)に、信州長野は松本市の松本市総合体育館にて「第12回JKS全国空手道選手権大会」が開催され、日本全国より1100名余の選手団の熱戦が繰り広げられました。幼年から一般6部、また車椅子や親子型におきましても、静岡県勢の活躍には眼を見張るものがありました。その中でも、この全国大会ならではの醍醐味を3点ほどお届けしたいと思います。

- 1 技術向上：例年以上のレベルUPに圧巻、各県の指導への熱い取り組みを目の当たりにしました。
- 2 県勢大活躍：松永賢・水上勇両先生を筆頭に普段は指導に当たる諸先生方の雄姿に感動しました。



3 模範演武：総本部指導陣による、高校空手部主将 5 名相手の「組手 5 人掛け」大柄な身体から繰り出す鋭い技や柔の受け、華麗な投げ等、空手の新たな魅力を垣間見ることができました。

等々、例年以上にライブでしか味わえない魅力たっぷりの大会でした。静岡県選手団や指導の先生方をはじめご父兄の皆様、お疲れ様でした。空手に魅了され 9 年目、仕事・家庭・子育てを抱え、体にムチ打ってまだまだ頑張ります。来年は日本の首都東京！いざ行かん！（レポート：藤枝精生館支部 夏賀 則子）



### 県本部主催夏季合宿



例年夏休みを利用して焼津青少年の家で夏季合宿を行ってききましたが、本年は菊川南陵高校で 14 日と 15 日の 2 日間、県内 12 支部 85 名の参加者でこの合宿の目的である『他道場生との友達作り』『挨拶などの基本的指導』『忍耐力の向上』を目指しました。

14 日午後からのスタート 13:00 から 14:30 基本稽古(体力作りと立ち足の徹底)、14:45 から 16:30 の型稽古は 4 グループに別れ課題型の稽古を行い 17:00 より学生寮の大浴場に入浴、18:30 夕食は高校職員が料理したカレーを頂きました。かなりハードな稽古だったのに子供たちは消灯時間ギリギリまで体育館でドッチボールなど汗がビチャビチャになるまで、はしゃぎまわっていました。2 日目、朝 7 時起床だが、子供たちは 6 時頃には全員起床しており、大きな声で「おはようございます」と気持ちの良い挨拶が聞こえてきました。昨晚 1 時間子供と《道場訓》の大切さについて話をした事が、素直に理解できたのではと喜ばしいことでした。バイキング式の朝食を摂り 9:30 より組手稽古、試合形式を行い 12:30 昼食を摂り解散いたしました。上級生が下級生の面倒をみる事で、後輩は先輩の言うことを良く聞き、先輩の親切に感謝する。先輩は後輩の指導をすることで自覚を持つ。大きな経験が出来たのではと思いました。支部の枠を超え松涛連盟の会員同士の友達がたくさん出来ました。空手道場に通う意味は空手の技術は勿論、将来常識ある社会人に育つ為に礼儀、感謝の気持ちなどの人間としての基本的な事を学んでもらいたく思います。（レポート：将陽館 菊池 伸行）

### 第 11 回将陽館空手道大会



平成 23 年 8 月 22 日(日)に藤枝市武道館にて、本部・菊川・掛川・浜松の全将陽館道場が一同に会して、第 11 回将陽館空手道大会が開催されました。本大会は、将陽館道場生の 1 年間の稽古の成果を発表・披露する大切な大会です。今回は、将

陽館道場生に加え、本部道場の菊地将元館長が指導している「まどか幼稚園」と「すみれ台幼稚園」の 30 名の参加をいただき、とても盛大になりました。実は、園児たちがきちんと整列して会場に入って来た時、道場生達が園児たちに恥じない行動がとれるのか少し不安になりました。しかし、乱れる事無く開会式に参列している姿を見て、杞憂に過ぎなかったことにホッと、「さすが将陽館の生徒だな」と改めて感心しました。幼稚園児を含む幼年の元気な前蹴りと、突きの基本試合を皮切りに大会は始まりました。中央に 1 面だけあるコートで、先生や仲間の注目を浴びながら型の演武や組手をするのはいつも以上に緊張します。その中で、皆ひるむ事無く堂々としていました。先生方の視線も熱く、試合後にたくさんのアドバイスをいただくことができ、勝っても負けても得るものがあったのではないのでしょうか。私も、一般型と親子型に出場させていただきました。特に親子型は息子 2 人と 3 人で抜塞大を打ったのですが、昨年の本大会では支部長の号令に合わせて平安 4 段を打ったことを考えると、自分達の成長を感じました。3 人で型を選んだり、合わせる事を考えて稽古したりと、親子の連体感が一層高まり、「一緒に空手をやって良かったなぁ」と心から感じる事ができました。本大会は道場内の大会ですが、将陽館大会と一緒に稽古に励んでいる仲間と自分の上達ぶりを確認できた、とても意義深い大会であることを感じました。これからまた稽古に励み、お互いに成長できる 1 年間となるようがんばります！押忍(レポート：将陽館本部道場 野谷和生と悠真の母 典子)